＜小学校＞

3 時限目　証券会社って？

証券会社っていったいなんでしょう。会社というからには利潤を求めて存在するものです。その利潤とは一部例外を除いて皆様が売ったり買ったりする時に発生する手数料です。

一部例外といいましたが最近盛り上がっている FX 市場では、手数料が徴収されないマーケットや業者もあります。しかしながらその仕組みはスプレッド（売値と買値の差）にて業者側の利益が発生したり、場合によっては投資家の皆様が売買する量に応じてブローカーから収益が分配されるケースもあります。

いずれにせよ運用対象が証券であれ FX であれ取扱い会社（証券会社や FX 会社など）の収益源は投資家の売買が背景にあります。

そこで少し考えてみてください。

証券会社では投資家の皆さんが利益を獲得しようが損失を発生させようが手数料（売買量）が儲かれば成り立つのです。もっとも原資となる証拠金や運用資金がなくなるほど損失を出してしまっては証券会社自体もなすすべはありませんし、利益を獲得することによって原資自体が増え、それにつれて投資家の売買量も増加すればまさしく WIN-WIN の関係は築けます。

しかしながら証券会社は、投資家の皆さんが売買を行えば利益は発生するのです。それに対して投資家はその後の結果が重要なのです。ここで明らかに双方のスタンスの違いがはっきりしています。

最近は証券会社の対面での営業スタイルは少なくなりましたが、対面においての優秀な営業マンとは、銘柄推奨や売買タイミングの推奨によって顧客に多大な利益をもたらす人間ではなく、会社に多大な利益をもたらす人間なのです。

もちろん前述したような WIN-WIN のような部分も必要でしょうが、取扱会社の営業マンにとっての必要条件ではないのです。

最も初心者にとっては色々な面でサポートが必要な投資家もいると思いますが、営業マンの中には本当に顧客に親身になってくれる営業マンばかりではないということを頭の片隅に置いておくべきです。親身になってくれる営業マンとは、投資家の利益を最優先に考える営業マンのことですが、基本的に彼らもサラリーマンですから・・・・

例えばマーケットが動きそうもないとき、優秀な？営業マンは何とかして投資家に売買を行ってもらうために材料を探します。そうして無理やりにでも投資家に動いてもらいます。でもマーケットは動きません。必然的に投資家は利益も損失も出ません。でも証券会社には手数料収入はあるのです。もちろんその後マーケットが動かないので投資家の決済も発生しませんから、決済分の手数料は落ちませんが・・・・、いずれは動きます。もし投資家の人がその時、買いポジションを持っていたとして、上がれば「利食いましょう！」下がれば「危険です。これ以上損失を増やさないためにも決済しましょう。」ということになります。基本的に投資家は「月間」の概念はあまり強くないと思われますが、営業マン

は、「今月の個人成績」や「会社の月間収益」で縛られているものです。

このような構図において一方に利益が発生すれば他方に損失が発生するといったような利益相反の関係は認められませんが、投資家個人が何ら武器も持たずに営業マンのいうがままに動いていては危機感を覚えます。すべての営業マンがこの様なスタンスといったようなことは決してありませんので、営業マンの進めるものはすべて排除するといったこととも違います。一部を除いてどんな営業マンもWIN-WIN の関係がベストであると分かっていますから、中には金言ともいうべき“お勧め”もあることも事実なのです。

多少相違点はありますがオンライン取引も同じことです。情報の充実やチャート機能などで投資家は数々あるニュースソースの中から吟味を加えて取捨選択し、それを取引の材料としなければなりません。売買につながる材料の提供先が対面かオンラインかの違いだけです。それ故にここ最近のオンラインシステムの充実が図られているといってもいいでしょう。材料は多ければ多いほうがよいのですから。

では投資家はどうしたらよいのでしょうか？

基本的に自己責任の原則から投資家自身で投資判断を行うのがベストなのですが、それにしてもプロばかりではないのですから、１日２日ならともかく時間的な問題も含めて、そのような環境で売買を行い続けるのは困難でしょう。初心者なら勉強も含めて習熟まで相当数の時間を要します。

色々な手法が考えられますが、少なくとも利益相反のしない形が理想的です。

実際には存在しませんが投資家が損した場合は手数料タダという形式の証券会社などです。（ひと昔前、商品取引員でそういう体制をとっていたところもありました。）

ただ、いずれ実現されるかもしれませんが、これは絵に描いた餅です。

取引を行う会社と情報を受けたり、運用のサポートを受けたりする会社を別にするのがよいでしょう。これならば全く利益相反することもなく、どうでもよいときに無駄な売買を行うこともなくなるでしょう。

当サイト「フィナンシャル・ヴィレッジ　金融村」はそんな投資家の皆さんに有益になるようなビジネスモデルで組み立て、そのようなコンテンツ作りを心がけています。有料のコンテンツもありますが、どれもこれも吟味を重ねて極力投資家の皆さんに負担にならないよう安価に抑えております。是非ともほかのコンテンツも覗いてみてください。

最後は宣伝みたいな感じで終わりまして申し訳ありませんが、スタッフ一丸の思いであるとともに、分業化が進むこれからの金融業界を先導する形と思っております。

どうぞこれからもよろしくお願いいたします。

株式会社フィナンシャルヴィレッジ